

# 読んでみよう 解いてみよう せん太のワークシート

岡山市内のオーダーメイド靴製造販売の会社が、新しいタイプのインソール(中敷き)を開発しました。記事を読んで質問に答えましょう。

## 記事①

### サポーターで足裏に固定

# 室内利用OK 新インソール

オーダーメイド靴製造販売の中山靴店(岡山市北区丸の内)は、サポーターで足裏に固定する新タイプのインソール(中敷き)を開発した。靴を履かない屋内でも利用でき、足の負担軽減や高齢者の転倒防止につながるという。(中浜汐里)

インソールは合成樹脂製で、かかとから土踏まずまでを覆い、足裏のアーチを支える形状。専用サポーターのポケットに差し込み、靴下のように履いて足裏にフィットさせる。歩行を安定させたり、足にかかる負担を減らしたりする効果が見込めるとして、特許と意匠登録を出願している。



サポーターで固定し、屋内でも利用できるインソール

## 中山靴店開発 負担軽減と転倒防止に

と、同社のインソールでは初めて量産品とすることを決め、保健学博士でドイツの靴職人「ゲゼル」の国家資格を持つ中山憲太郎社長(43)が型を製作。靴メーカーの岡本製甲(倉敷市茶屋町)に製造を委託し、専用サポーターは医療用品製造のダイヤ工業(岡山市南区古新田)が手掛けた。

商品名は「ドクターインソール エニー」S、M、Lの3サイズで、サポーターは黒とベージュの2色を用意する。8800円。クラウドファンディング(CF)仲介サイト「マクアケ」で26日まで先行販売し、一般販売は来年5月の予定。中山靴店はこれまで、靴の中に入れて使うインソールをオーダーメイドで約2万人に提供してきた。新型コロナウイルス禍で外出機会が減り、「せつかく作ったのになかなか使えない」との声が寄せられているといい、在宅時間の増加による需要も見込んでいる。

中山社長は「1年以上かけて作った製品。今後も利用者の声を聞きながら改良を重ねていきたい」と話している。

中山靴店は1950年創業、資本金1千万円、従業員46人。売上高は非公表。

## 記事②

靴を履かなくても使えるユニークなインソールを開発した中山靴店。背景には、中山憲太郎社長の亡き祖母への思いがある。

昨秋、東京で暮らしていた祖母・木村英子さん(当時99)が自宅で転倒。頭を打って入院し、数日後に息を引き取った。コロナ禍で病院に駆け付けられることも、葬儀に参列することも



祖母の死をきっかけに新製品を開発した中山社長

かなわなかった。「家庭内振り返る。での転倒を防げる製品があれば」。悲しみの中で頭を浮かんだのが、以前から術は自社になく、量産品のアイデアを温めていた屋内製造も専門外。頼ったのが、以前から互いの商品を扱っていた。足の健康セミナーを共催したりして交流のある「ダイヤ工業と岡本製甲だっ

### 祖母の死で意志固める

た。思いを伝えると、両社とも快く協力してくれたという。

中山社長は「足元を支え、炊事や洗濯など立って行う家事の際の負担軽減も図れる。一人でも多くの人に使ってもらいたい」と力を込める。(中浜汐里)

みんなの力を合わせて  
優しさを形にできたね



★の数は問題の難易度を表しています。

### Q1 ★★☆☆

新タイプのインソールの特徴と使用目的について、記事①のリード(第1段落)と第2段落に注目して説明しましょう。

### Q2 ★☆☆☆

どんな会社との協力によりインソールが開発されたか、記事①の第3段落から読み取りましょう。

### Q3 ★★☆☆

記事②を読んで、社長がインソール開発の意志を固めたきっかけについて感じたことを周りの人と話しましょう。